

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 パラスポーツ振興事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 地域スポーツ課 地域・パラスポーツ係 電話番号：058-272-1111(内2622)

E-mail：c11172@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 17,514 千円 (前年度予算額： 17,514 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	17,514	0	0	0	0	0	0	0	17,514
要求額	17,514	0	0	0	0	0	0	0	17,514
決定額	17,514	0	0	0	0	0	0	0	17,514

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

障がい者のスポーツ活動を支援し、障がい者の社会的地位の向上及び自立を支援するために、パラスポーツの普及・促進、功労者表彰等の実施に係る経費や運営経費を(一社)岐阜県障害者スポーツ協会へ補助する。

(2) 事業内容

①岐阜県障害者スポーツ協会の組織体制支援

(i) 岐阜県障害者スポーツ協会運営費

様々な側面から県全域のパラスポーツ振興を実施する県障害者スポーツ協会の活動に対して支援を実施。

(ii) パラスポーツ普及・強化推進員設置費

パラスポーツにおける組織体制強化、普及促進、競技力向上等多岐にわたる事務を補助する職員を配置。

②パラスポーツの普及、促進に関する取組

(i) 岐阜県障害者スポーツ協会表彰

パラスポーツにおける成績優秀者や功労者への表彰を実施。

(ii) パラスポーツ普及・促進事業

ぎふ清流大会の成果を生かし、パラスポーツの普及を図るため、パラスポーツを団体等の競技会や練習等の活動を支援し、障がい者がスポーツに参加する機会を拡大する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	17,514	・事務局運営費：8,213千円 ・普及・強化推進員設置費：2,788千円 ・岐阜県障害者スポーツ協会表彰：328千円 ・パラスポーツ普及促進事業：6,185千円
合計	17,514	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県障がい者総合支援プラン（スポーツによる障がい者の社会参加推進）
- ・清流の国ぎふスポーツ推進計画（パラスポーツの推進）

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	パラスポーツ振興事業費補助金
補助事業者（団体）	（一社）岐阜県障害者スポーツ協会 （理由）同団体は、身体、知的、精神の3障がいを対象とした障がい者のスポーツ振興を図るために、障がい者団体及び関係機関が設立し、すべての手帳所持者が加入資格を有する会員数県下最大の障がい者福祉関係団体であり、本事業を推進しうる組織力、実務遂行能力を有する唯一の団体であるため。
補助事業の概要	（目的）障がい者のスポーツ活動を支援し、障がい者の社会的地位の向上及び自立を支援する。 （内容）パラスポーツの普及・促進、功労者表彰等の実施に係る経費や運営経費を（一社）岐阜県障害者スポーツ協会へ補助する。
補助率・補助単価等	定額 ・定率・その他（例：人件費相当額） （内容） （理由）
補助効果	パラスポーツの普及と拡大
終期の設定	終期8年度 （理由）第2期スポーツ推進計画期間

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p>	<p>パラスポーツの振興をするため、岐阜県障害者スポーツ協会の運営を支援し、パラスポーツの普及や選手強化等の事業を継続的に実施していく。また、パラスポーツの活性化のために、協会による功労表彰や競技別団体の活性化事業の支援を行う。</p>
------------------------------	--

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	R6年度	R7年度	R8年度	終期目標	達成率
	(R)	実績	目標	目標	(R8)	
①パラスポーツを行う団体に対する支援（団体数）	22	20	30	30	30	67%

補助金交付実績 （単位：千円）	R4年度	R5年度	R6年度
	17,514	17,514	17,514

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	コロナ禍であったが、全国障害者スポーツ大会も4年ぶりに開催され、徐々にスポーツ活動が再開され、パラスポーツに取り組む団体も増えており、必要とする団体への支援を実施することができた。 指標① 目標：30 実績：25 達成率：83%
令和5年度	東京パラリンピックでの県内選手の活躍により、パラスポーツへの関心が高まり裾野を広げることができた。また、必要とする団体への支援を実施することができた。 指標① 目標：30 実績：26 達成率：87%
令和6年度	目的や事業効果の向上を図るべく、県障害者スポーツ協会より助言、指導にあたりながら、必要とする団体へ支援を実施することができた。 指標① 目標：30 実績：20 達成率：67%

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	県障害者スポーツ協会は、ぎふ清流大会を契機とした取組や、2020年東京パラリンピック後を見据えた取組を実施するための重要な受け皿であり、その運営等を支援していく必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	「ぎふ清流大会」の開催を契機に、パラスポーツへの関心が高まり、事業効果が現れている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	パラスポーツへの参加者数や関心が高まり、協会全体の運営費は増加傾向にあっても、補助金額を据え置いて運営できるよう、スポーツ協会が効率化を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 「ぎふ清流大会(第12回全国障害者スポーツ大会)」、東京パラリンピックで高まったパラスポーツへの関心を一過性のものとするのではなく、引き続きパラスポーツの普及と拡大を図る必要がある。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 継続。第2期スポーツ推進計画の5本柱の1つである、「障がい者の活躍を広げるパラスポーツの推進」達成のためにも継続の必要性がある。
--